

〈作品〉

作品 「transonic」

石野 眞

Makoto ISHINO : A Work "transonic"

この作品は、季刊誌「トランソニック」による長年の構想をテーマ「transonic」として、鳥取県展と鳥根県展における審査員招待作品として出品するために制作したものである。

キーワード：トランソニック 鳥取県展 鳥取県立博物館 米子市美術館 日南町美術館
倉吉博物館 鳥根県展 鳥根県立美術館

作品「transonic」は、グループtransonicが、昭和48年12月25日に創刊した季刊誌「トランソニック」が掲げた—新しい音楽の未来を探る—ための状況の理解と創造的活動の展開、trans+sonicを主題として表現している。季刊誌「トランソニック」は、冒頭に、この語について、次のように記している。

trans [traenz, -s] pref. ①越えて、横切って：transmit ②貫いて通って、完全に：transfix ③他の側へ、別の状態へ：translate ④超越して：transcend ⑤自由な接頭辞として、…の向こう側の：

+

sonic [sanik/scn-] a. ①音の、音波の、音速の〔に等しい〕—cf. HYPERSONIC, SUBSONIC, SUPERSONIC, TRANSONIC

=

トランソニック—transonic

新しい音楽の未来を探る季刊誌「トランソニック」編集同人は林光、一柳慧・松平頼暁・柴田南雄・高橋悠治、武満徹・湯浅譲二。A.D勝井三雄である。

この作品「transonic」は、鳥取県展デザイン部門および鳥根県展デザイン部門において審査員招待作品として発表するために制作し、註記の会場に展示された。鳥取県展では、具体的な商品名を使用し

ない規定のために、制作テーマにそって「室内音楽会のために」と題名変更した。制作は、イラストレータ9.0によるCG作品で、3色の細い曲線の連続するリズムカルな展開である。こうした構造的な表現は、スイス構成主義、日本では、バウハウスの予備課程に始まるデザインの基礎教育が構成教育、基礎美術、基礎造形教育として今日の美術教育にある。東京教育大学での高橋正人教授による構成教育、筑波大学での朝倉直巳教授の構成教育と基礎造形学会の創立は、構成表現/基礎造形表現を美術及び芸術的表現へ高揚した。

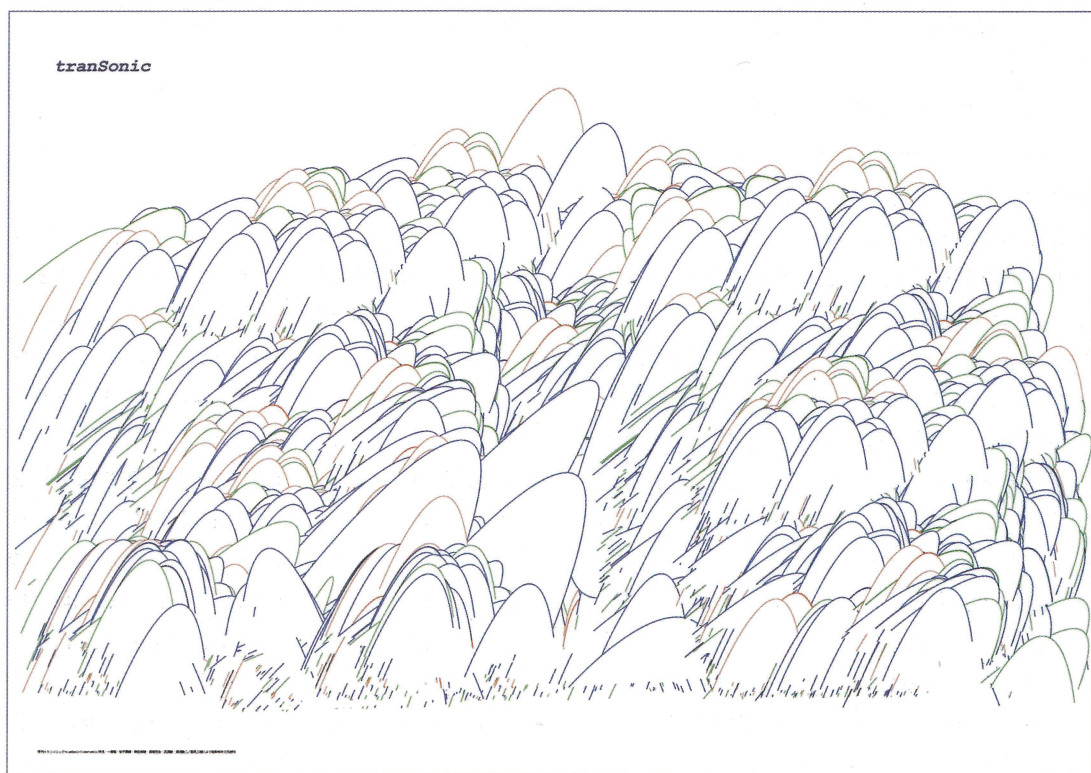
こうした私の制作と表現もデザイン学会、基礎デザイン学会および文部省内地研究員として東京芸術大学美術学部基礎デザイン研究室で、内藤四郎教授の御指導をいただいた賜物である。

註

*鳥取県展：2005年9月17日（土）—26日（月）：鳥取県立博物館。

*第3回鳥根県民文化祭・第38回鳥根県総合美術展〔県展〕2005年11月（土）—27日（日）：鳥根県立美術館。

*季刊誌「トランソニック」1号：全音楽譜出版社：昭和48年12月25日。



transonic 74×103cm

石野 真